

3 単元名 マット運動 第3学年

4 運動の特性

(1) 一般的特性

- ・マット運動は、マットに背中や腹などをつけていろいろな方向へ転がったり、手や背中で支持しての逆立ちなどをしたりする運動である。
- ・支持、逆さ姿勢、回転など、日常生活では通常行われない動きを含んだ運動である。
- ・いろいろな動きに楽しく取り組み、自分の力にふさわしい動きを身につけたときに喜びを味わうことのできる運動である。

(2) 児童から見た特性

運動の楽しみ方	学び方	技能
<p>○マットの上でいろいろな方向に転がったり、逆さになったりすることで日常と違った運動感覚を味わうことができる。</p> <p>○グループの中での励まし合いや声かけによって、運動が楽しく感じる。</p> <p>●回転したり逆さになったりすることで恐怖を感じる。</p>	<p>○それぞれの場でいろいろな動きを練習することで、運動ができるようになる。</p> <p>●どんな声をかけていいのかわからず、声をかけることができない。</p>	<p>○いろいろな方向に転がることができる。</p> <p>○手や背中で体を支持することができる。</p> <p>○逆さになったり、回転したりするなど、自由に体を動かすことができる。</p> <p>●恐怖心やうまくできないなどのマイナスの思いから、運動を躊躇してしまう。</p>

5 児童の実態

- ・男子16名、女子16名、計32名の学級。
- ・素直で、何事にも前向きに一生懸命取り組む児童が多い。
- ・運動に関しては、男女の差が大きい。
体育の授業には意欲的に取り組む児童が多い。
- ・「学級力アンケート」に、全校で取り組んでいる。本学級の得点は、支え合いが91点、仲間が90点、尊重が84点と「友達」に関わる項目の点数が高くなっている。日常の様子を見ていても、困っている友だちがいるとすぐに声をかけてあげたり、学習でわからない問題があると力を貸してあげたりする様子を見ることができる。

	男子	女子	合計
A	0	6	6
B	4	6	10
C	5	2	7
D	4	2	6
E	2	0	2

表：新体力テスト総合評価(2016)

【事前アンケートの結果】

- ・体育が「好き・大好き」と答えた児童が100%とかなり高い数値を示している。
- ・マット運動について、「あまり好きではない」と答えた児童が4名(12.5%)いる。嫌いな理由については「回ることができないから」「つかれるから」「回ると気持ち悪くなるから」(2名)であった。この4名の児童も体育の授業は、全員「好き」である。好きな理由としてあげられるのは、友達と一緒に運動ができた、いろいろな動きを経験できたり、ほめられたりすることである。
- ・多くの児童が授業中に「楽しい・おもしろい」と感じるのは、「友だちと一緒に運動出来

たとき」である。また、教え合いや学び合いを好きな児童の割合が81%と高い。そのため、授業の中で、教え合ったり、声をかけあったりする活動を取り入れることは有効であると考える。

6 授業の構想と指導意図

(1) 基本的な考え方

中学年のマット運動の目標は「基本的な回転技や倒立技ができる」である。人間は日常生活において直立姿勢であり、頭は腰よりも高いところに位置する。一方、マット運動では体を回転させたり、逆さになったりと、頭が腰よりも低い姿勢になることが多い。現代の子どもたちは昔のように多様な遊びをすることは少ない。また、室内で遊ぶことが多いため、様々な運動感覚を味わう経験が乏しい。「逆立ち」や「転がる」などの経験の少ない子は、姿勢変化をしようとしたときに、自分のおかれている状況がわからなくなって、こわがったり、運動に対して抵抗感をもったりする。抵抗感や恐怖感というものは運動を身に付けていくうえで、大きな壁となる。授業の中に様々な運動感覚づくりの時間を設けることで抵抗感や恐怖感を少なくすることができると思う。

低学年のマットを使った運動遊びでは、マット運動に必要な基礎感覚づくりを行ってきた。中学年の「マット運動」では低学年で身につけた感覚を活かし、基本的な回転技・倒立技を身につけさせることが必要である。技の正確性も必要だが、手のつき方やふみきり方など、これからの技の学習に必要な点についてももしっかり指導し、高学年での学習につなげていきたい。

今回の授業では「前転」「後転」「壁倒立」「横跳び越し」の4つの技の習得を目指し行った。低学年での「マットを使った運動遊び」では支持や逆さ姿勢、回転などの運動を楽しく行うとともに、基本的な動きや感覚を身につけてきた。中学年では低学年で身につけてきた動きや感覚をもとに、基本的な回転技や倒立技に取り組み、自己の能力に適した技の習得を目指す。基本的な技に十分取り組んだ上で、技を繰り返したり、発展的な技に取り組みせたりもしていきたい。技に挑戦して身につける楽しさや、できるようになった技をより美しく行うことの楽しさを味わわせる授業にしていきたいと考え行ってきた。マット運動があまり好きではない児童に対しては、友達と一緒に活動し、様々な感覚づくりを経験させたり、小さなことでも成功体験を積み重ねたりすることで、少しでもマット運動が好きになるような授業づくりに努めてきた。上手にできる児童に対しては、見本としてみんなの前で試技させたり、少し高度な課題に取り組ませたりし、全員が楽しみながら運動できるようにしてきた。

本単元は全7時間で計画している。前半の3時間で技を一つ一つ取りあげ、練習していく。練習に入る前に技のポイントを、オノマトペを利用した「キーワード」で子どもたちに指導していく。練習していくうちに何となくできるようになるのではなく、技のポイントをしっかり理解させた上で子どもたちに習得させていきたいと考えた。

マット運動の思考・判断には「自己の能力に適した課題を持ち、技ができるようにするための活動を工夫すること」が書かれている。自分の力に応じた練習方法や練習の場を選び、基本的な技の動き方や技のポイントを知り練習することが必要になる。本授業でも、段階ごとに難易度を変えた場を設定した。その中で、児童が自分に合った場で練習したり、活動を工夫したりする力も養っていきたいと考えた。また、技に関連した感覚づくりの運動を毎時間取り入れ、苦手な児童も自信をもって取り組めるようにするとともに、易しい場や感覚づくりの運動を通して段階的に取り組み、全ての児童が基本的な回転技や倒立技ができるような授業づくりに努

めてきた。

(2) 単元展開の工夫

ア 基礎感覚づくり

器械運動で、身につけさせたい運動感覚は以下のとおりである。

- | | |
|---------|-----------------------------------|
| ・逆さ感覚 | …かえる倒立, かえるの足うち, 手押し車, うさぎとび |
| ・腕支持感覚 | …手押し車, 上り棒, 馬跳び, 手足走り きりん歩き |
| ・回転感覚 | …でんぐりがえり, 鉄棒での前回り, 丸太転がり, だるまころがり |
| ・バランス感覚 | …腕立て跳び上がりおり, ゴム跳び, ケンパー遊び |
| ・高さ感覚 | …肋木 (ジャングルジム) の上り下り, ステージからの跳び下り |
| ・柔軟性 | …ブリッジ, エビぞり, 開脚姿勢での前屈 |
| ・リズム感 | …スキップ, ギャロップ, サイドステップ, スキップ～ホップ |

授業の中で、逆さ感覚、腕支持感覚、バランス感覚、高さ感覚、柔軟性、リズム感が身につく様々な動きを経験させて、基礎感覚づくりをした。マット運動においては、様々な感覚づくりが大切であるが、その中でも「ゆりかご」は回転感覚を身につけさせるために有効であると考えている。そのため、「ゆりかごタイム」として、大きいゆりかごや小さいゆりかごなど様々なバリエーションを取り入れた。「ゆりかご」を指導する中で、背支持倒立の姿勢や後転の時の着手の仕方などを教師から意図的に声をかけることによって、回転感覚だけでなく、逆さ感覚、腕支持感覚の感覚づくりにもつなげたいと考え取り組んできた。毎時間の冒頭に時間を取り丁寧にを行うことで、マット運動に必要な多くの運動感覚を身につけることができた。そして、基本的なの習得につなげることができた。

ゆりかごタイムの内容は以下の通りである。児童にポイントがわかりやすいよう、小さなゆりかご、中くらいのゆりかご、大きなゆりかごにはポイントをそれぞれ設定し、意識して運動ができるようにした。

【ゆりかごタイム】

- | |
|------------------------------------|
| ①小さなゆりかご (体育座りでゆりかご) |
| ②中くらいゆりかご (後ろに転がったときに手をつく→後転につなげる) |
| ③大きなゆりかご (背支持倒立からゆりかご) |

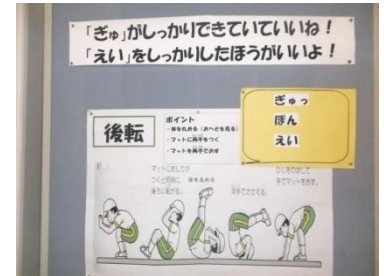
※中くらいと大きなゆりかごは、起き上がるときに、手を前に出すようにし、しゃがみ立ちを目指す。

感覚づくりについては、次のものを毎時間準備体操の後に行った。

- ・ゆりかご
- ・かえる倒立, 背支持倒立
- ・動物歩き (あざらし, くも, くま, しゃくとり虫, うさぎ, いぬ)
- ・かえるの足うち
- ・ブリッジ

イ 学び合いの学習（言語活動の充実）

本単元での言語活動については、技のポイントに焦点をあて行ってきた。技を指導する際もキーワードでポイントをおさえる。友だち同士の声かけの中にも、ほめ合ったり、はげまし合ったりするだけでなく、技のポイントとなる言葉を入れながら行えるようにした。声をかける児童が「どこに注目して見ればいいのか」ということが具体的にわかるように技のポイントが書いてあるものを掲示し、それを見ながら声かけをできるようにした。意図的に声かけを行う場を設けたり、役割を決めたりはしなかったが声をかけ合っている姿が多く見られた。普段あまり友だちに声をかけられない児童も、オノマトペを使用することで、「『ポン』ができていて上手だったよ」のような短い言葉ではあるが、声をかけることができていた。技のポイントを焦点化することによって、活発な学び合いにつながることはできたのではないかと。



ウ タブレットについて

本校には「i Pad」が6台ある。マット運動では、回転しているときや倒立しているときの姿勢が自分では確認しにくい。授業の中で i Pad で試技を録画し、その場で自分の動きを確認することは大変有効であった。今回の授業では、教師が録画しその場で動画を見せたり、撮ったものを教室で見せたりすることで活用してきた。見ているときの子どもたちの様子からも、自分の動きを再確認するために大変有効であった。

また、技のポイントをおさえる際にも、上手にできている児童の動画を撮影し、それを見ながら一つ一つのポイントを確認することにも活用することができた。

前転	後転	かべとう立	横とびこし
<p>ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> 手をしっかりとつく（両腕） 体を丸める（おへどを見る） 頭の後ろをつく ひざをどうえて立つ <p>キーワード</p> <p>ポン ぎゅっ うしろ どうえて スッ</p>	<p>ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> 体を丸める（おへどを見る） マットに両手をつく マットを両手でおす <p>キーワード</p> <p>ぎゅっ ポン 両手でおす</p>	<p>ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> 手をバーでつく（両腕） マットを見る 体が一直線 <p>キーワード</p> <p>ポン バー タタタ じー ピン</p>	<p>ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> 両手をしっかりとつく ひじをのばす マットを見る こしを持ち上げる <p>キーワード</p> <p>ポン ピン じー こしたかく</p>

7 単元の目標

- (1) 基本的な回転技や倒立技をすることができるようにする。【技能】
- (2) マット運動に進んで取り組み、きまりを守り仲良く運動したり、場や用具の安全に気を付けたりすることができるようにする。【態度】
- (3) 自己の能力に適した課題をもち、技ができるようになるための活動を工夫することができるようにする。【思考・判断】

8 評価規準

	運動の関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 技ができる楽しさや喜びに触れることができるよう、器械運動に進んで取り組もうとしている。 器械・器具の使い方や運動の行い方のきまりを守り、友達と励まし合って運動しようとしている。 友達と協力して、器械・器具の準備や片付けをしようとしている。 運動する場や器械・器具の使い方などの安全を確かめようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の能力に合った練習の場所を選んでいる。 技のポイントを知り、アドバイスをしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分に合った基本的な回転技や倒立技を行うことができる。
学習活動に即した評価規準	<ol style="list-style-type: none"> ①技ができるようになるために運動に進んで取り組もうとしている。 ②役割を決め、友達と協力して、マットの準備や片付けをしようとしている。 ③運動のきまりを守り、安全に気を付け、マットや用具などの安全を確かめて練習をしようとしている。 	<ol style="list-style-type: none"> ①自分の能力に合った練習の場所を選んでいる。 ②技のポイントを知り、アドバイスをしている。 	<p>【基本的な回転技を行うことができる。】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①滑らかな前転を行うことができる。 ②滑らかな後転を行うことができる。 <p>【基本的な倒立技を行うことができる。】</p> <ol style="list-style-type: none"> ③両手をついて体を持ち上げ、横跳び越しをすることができる。 ④両手で体を支えて、壁を使って逆立ちをすることができる。

9 単元の指導計画

《中学年の2学年で扱う計画》

中学年前半（3年）

中学年後半（4年）

1	2	3	4	5	6	7
感覚づくりの運動や基本的な技の習得を目指して運動を行う。			自分の力に合った課題をもち、工夫して運動を行う。			発表会
前転	後転	壁倒立 横跳び越し	前転・後転		壁倒立・横跳び越し	

1	2	3	4	5	6	7
感覚づくりの運動や基本的な技や発展技の習得を目指して運動を行う。			自分の力に合った課題をもち、工夫して運動を行う。			発表会
前転 開脚前転	後転 開脚後転	壁倒立・ 補助倒立 側方倒立回転	前転・開脚前転・後転 開脚後転・壁倒立・補助倒立・側方倒立回転			

【全7時間の単元展開】

- 第1時 技のポイントを知り、「前転」をできるようになろう。
- 第2時 技のポイントを知り、「後転」をできるようになろう。
- 第3時 技のポイントを知り、「横とびこし・壁倒立」をできるようになろう。
- 第4時 キーワードを使って声をかけ合い、できる技を増やそう。
- 第5時 キーワードを使って声をかけ合い、できる技を増やそう
- 第6時 キーワードを使って声をかけ合い、できる技を増やそう
第4・5・6時→自分に合った練習場所で練習できるようにする。
- 第7時 練習してきた技を発表しよう。

時	主な学習活動	態度	学習態度	技能	教師の関わり・支援
第一時	1 用具や場の準備・健康観察 ・学習活動の進め方，約束ごとなどを知る 2 準備体操・補助運動（リズム太鼓） ・かえる倒立　・かえるの足うち ・ブリッジ　　・背支持倒立　・動物歩き 3 ゆりかごタイム（マットの上でいろいろなゆりかご） 4 めあての確認 技のポイントを知り，「前転」をできるようになる ・前転の仕方やポイントを理解する。 5 それぞれの場で練習する。 ・ポイントができているかを友だち同士で伝え合う。 6 振り返り・片付け	①	観察		※学習のねらいと進め方を説明し，見通しをもって，学習に取り組めるようにする。 ※補助運動を通して，様々な運動感覚を身につけるための運動を繰り返し行えるようにする。 ※練習場をいくつか設定し，自分に合った場所で練習できるようにする。 ※動きのいい児童を i Pad で撮影しておく。 ※技術ポイントを掲示したり，手元に置いたりし，より効果的な学び合いの学習が行えるようにする。
第二時	1 用具や場の準備・健康観察 ・学習活動の進め方，約束ごとなどを知る 2 準備体操・補助運動 ・かえる倒立　・かえるの足うち　・ブリッジ ・背支持倒立　・動物歩き 3 ゆりかごタイム（マットの上でいろいろなゆりかご） 4 めあての確認 技のポイントを知り，「後転」をできるようになる ・前転の仕方やポイントを理解する。 5 それぞれの場で練習する。 ・ポイントができているかを友だち同士で伝え合う。 6 振り返り・片付け	②	観察	②	※安全に運動ができるように用具を設定する。 ※各動きのねらいを意識させ，運動に取り組ませる。 ※練習場をいくつか設定し，自分に合った場所で練習できるようにする。 ※動きのいい児童を i Pad で撮影しておく。 ※技術ポイントを掲示したり，手元に置いたりし，より効果的な学び合いの学習が行えるようにする。
第三時	1 用具や場の準備・健康観察 ・学習活動の進め方，約束ごとなどを知る 2 準備体操・補助運動 ・かえる倒立　・かえるの足うち ・ブリッジ　　・背支持倒立　・動物歩き 3 ゆりかごタイム（マットの上でいろいろなゆりかご） 4 めあての確認 技のポイントを知り，「横跳び越し・壁倒立」をできるようにする ・横跳び越しや壁倒立の仕方やポイントを理解する。 5 それぞれの場で練習する。 ・ポイントができているかを友だち同士で伝え合う。 6 振り返り・片付け			②	※安全に運動ができるように用具を設定する。 ※各動きのねらいを意識させ，運動に取り組ませる。 ※練習場をいくつか設定し，自分に合った場所で練習できるようにする。 ※動きのいい児童を i Pad で撮影しておく。 ※技術ポイントを掲示したり，手元に置いたりし，より効果的な学び合いの学習が行えるようにする。

<p>第四時・第五時 (本時)</p>	<p>1 用具や場の準備・健康観察 ・学習活動の進め方，約束ごとなどを知る 2 準備体操・補助運動 ・かえる倒立 ・かえるの足うち ・ブリッジ ・背支持倒立 ・動物歩き 3 ゆりかごタイム (マットの上でいろいろなゆりかご) 4 めあての確認 キーワードを使って声をかけ合い，できる技を増やそう。</p>			<p>第4時 ① ② 観察</p>	<p>※安全に運動ができるように用具を設定する。 ※各動きのねらいを意識させ，運動に取り組ませる。</p> <p>※子どもたちを4つのグループに分け，2つの技を順番に練習する。</p>
	<p>5 練習する。 ・それぞれの技を自分に合った場で練習する。 ・ポイントができていないかを友だち同士でチェックする。 6 振り返り・片付け</p>			<p>第5時 ③ ④ 観察</p>	<p>第4時 A 前転・横跳び越し B 後転・壁倒立 第5時 A 後転・壁倒立 B 前転・横跳び越し ※練習場をいくつか設定し，自分に合った場所で練習できるようにする。 ※技術ポイントを掲示したり，手元に置いたりし，より効果的な学び合いの学習が行えるようにする。</p>
<p>第六時</p>	<p>1 用具や場の準備・健康観察 ・学習活動の進め方，約束ごとなどを知る 2 準備体操・補助運動 ・かえる倒立 ・かえるの足うち ・ブリッジ ・背支持倒立 ・動物歩き 4 ゆりかごタイム (マットの上でいろいろなゆりかご) 5 めあての確認 キーワードを使って声をかけ合い，できる技を増やそう。</p>	<p>③ 観察</p>	<p>① 観察・カード</p>	<p>※安全に運動ができるように用具を設定する。 ※各動きのねらいを意識させ，運動に取り組ませる。</p> <p>※これまでの学習から，自分の課題を見つけ，自分に合った場所で練習できるようにする。 (グループは設けず，個人で) ※技術ポイントを掲示したり，手元に置いたりし，より効果的な学び合いの学習が行えるようにする。</p>	
<p>第七時</p>	<p>1 用具や場の準備・健康観察 ・学習活動の進め方，約束ごとなどを知る 2 準備体操・補助運動 ・かえる倒立 ・かえるの足うち ・ブリッジ ・背支持倒立 ・動物歩き 4 ゆりかごタイム (マットの上でいろいろなゆりかご) 5 めあての確認 練習してきた技を発表しよう。 6 発表会 7 片付け・振り返り</p>			<p>① ② ③ ④ 観察</p>	<p>※安全に運動ができるように用具を設定する。 ※各動きのねらいを意識させ，運動に取り組ませる。</p> <p>※技術ポイントを掲示したり，手元に置いたりし，できているかを確認しながら発表を見る。 ※子どもたち同士の肯定的な評価につながるよう，声かけを行う。</p>

10 本時の学習（全7時間の第5時）

(1) 日時 平成28年 8月 31日（水） 14:00～14:45

(2) 場所 日下部小学校体育館

(3) 本時のねらい キーワードを使ってお互いにアドバイスし、できる技を増やそう。

(4) 展開

	学習内容と活動	教師の関わりと評価
はじめ (14分)	<p>1 用具や場の準備・健康観察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習活動の進め方，約束ごとなどを知る <p>2 準備体操</p> <p>短時間で効率よく行う</p> <p>3 補助運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かえる倒立（10秒） ・かえるの足うち（2回できることを目指す） ・ブリッジ（10秒） ※つま先立ち，できる児童は片足上げ ・背支持倒立（全員が上がるまで） 足先まで伸ばし，一直線 ・動物歩き  <p>4 ゆりかごタイム（マットの上で）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小さなゆりかご（体育座りで小さくゆれる） ・中くらいのゆりかご（後ろにたおれるときに耳の後ろに手をつく） →後転につなげる ・大きなゆりかご（背支持倒立からしゃがみ立ち） 	<p>※安全に運動ができるように用具を設定する。</p> <p>※教師が声をかけて体操を行わせる。</p> <p>※動きが雑にならないようにていねいに行うことを伝え，取り組ませる。</p> <p>※様々な運動感覚を経験させる。</p> <p>※各動きのコツを意識できるように声をかける。</p>  <p>※中くらいと大きなゆりかごは，起き上がるときに，手を前に出すようにすることを伝え，しゃがみ立ちをめざす。</p> <p>※しゃがみ立ちができない児童に対して，スピードを上げることやへそを見て体を丸くすることや，おしりと足をくっつけるなど，その児童に合った声をかける。</p> 

<p>なか (23分)</p>	<p>5 めあての確認</p> <p>キーワードを使って声をかけ合い、できる技を増やそう。</p>  <p>6 練習する。</p> <p>A グループ 後転→壁倒立 B グループ 前転→横跳び越し</p> <p>・10分 × 2つの技</p>	<p>※声に出し読んで、確認させる。</p> <p>※本時の展開のねらいを伝え、見通しを持って学習に参加できるようにする。</p> <p>※児童が技に挑戦し、自分に合った課題を見つけ、練習できるように助言する。</p> <p>※キーワードを確認し、子どもたちにポイントを思い出させてから練習に入るようにする。</p> <p>※子どもたちを4つのグループに分け、2つの技を順番に練習させる。</p> <p>A 後転・壁倒立 B 前転・横跳び越し</p>
<p>なか</p>	<p>(技の段階)</p> <p>前転</p> <p>①補助あり ②補助なし ③連続</p> <p>後転</p> <p>①補助あり ②補助なし ③連続</p> <p>横跳び越し</p> <p>①練習器具の上で ②腰を高く持ち上げて ③腰を高く持ち上げて遠くへ</p>  <p>壁倒立</p> <p>①肋木登り倒立 ②壁登り倒立 ③壁倒立</p> 	<p>※前転や後転ができない児童には、「ゆりかご」の動きを思い出させる。</p> <p>※声かけの例を掲示し、どんな言葉をかけると良いか子どもたちに問いかけ、効果的な学び合いの学習が行えるようにする。</p>  <p>※試技をする前に見てもらいたいところを友達に伝え、終わった後には必ず声をかけられるようにして、学び会を活発にする。場所の関係から一人になってしまう児童に対しては、教師が声かけを行う。</p> <p>※着手するところに手形を貼るなどして、視覚的に支援する。</p> <p>技 キーワードを使ってアドバイスをし、できる技を増やす。</p>
<p>おわり (8分)</p>	<p>7 片付け</p> <p>8 振り返り 健康観察 用具や場の片付け</p>	<p>※できたことを認め合う場面をつくる。</p> <p>※役割ごとに協力して後片付けをするように声をかける。</p>

1 1 成果と課題（成果○，課題▲）

ア 基礎感覚づくり

- 感覚づくりを毎時間の授業の冒頭にいれることにより，基本的な技の習得に必要な基礎感覚づくりにつなげることができた。また，技の習熟度も上げることができた。
- ゆりかごタイムはスモールステップになっていて，子どもたちの完成度が少しずつ高くなっていった。
- ▲ゆりかごでスムーズに回れていない子どももいたので，そのような子を意識して見ていくことが必要である。（技を習得しやすくするためのものなので，技の練習以上に大切）

イ 学び合いの学習（言語活動の充実）

- ポイントをキーワードとして使ったことで，子どもたちが技の正しい動きを意識して練習でき完成度が高まっていた。友だちの技に対しても助言しやすくなり学び合いも深まった。
- 技のポイントをオノマトペを利用してキーワード化したことにより，子どもたちの理解も深まり意識して練習することができた。また，言語活動においても有効であった。
- キーワードを使っの学び合いを取り入れることにより，友達同士の関わり合いも増え楽しみながら取り組むことができた。子どもたちの意欲の向上にもつなげることができた。
- ▲キーワードを授業冒頭の感覚づくりからもっと取り入れるべきであった。手をつくときは「ポン」体を伸ばすときは「ピン」など感覚づくりから意識させるとさらなる理解につながったのではないか。

ウ タブレットについて

- ICT 機器（ipad）を活用することで自分が試技している姿を客観的にとらえることができ技術の向上につなげることができた。子どもたちに全て使わせるのではなく，教師が撮影したものを見せるだけにしたことも有効であった。
- タブレットの映像を見ながら，「ぎゅっ」ができていたよ。」といったような言葉がでていた。学び合いの学習や言語活動の充実にもつなげることができた。
- 正しい動きを確認する際に，教科書の挿し絵だけでなく，上手にできている児童の動画を活用した。動画で確認することで，連続した動きを確認することができた。
- ▲ipadを教師が用いたことで，ipadに縛られてしまう場面があった。補助を必要とする児童に対しての支援が足りなくなってしまうという課題が残った。

エ その他

- 子どもたちが楽しみながら技の技能を伸ばし，ポイントを押さえられるような場の工夫がされていた。どの子も意欲的に取り組むことができていた。
- 練習の場を工夫し，教師の指示を少なくすることで子どもたちの運動量を確保することができた。
- 1つの技に対していくつかの練習場を段階的に設けることで，子どもたちが自分に合った練習の場を選び活動することができた。また複数の練習の場があることで飽きずに練習することができた。